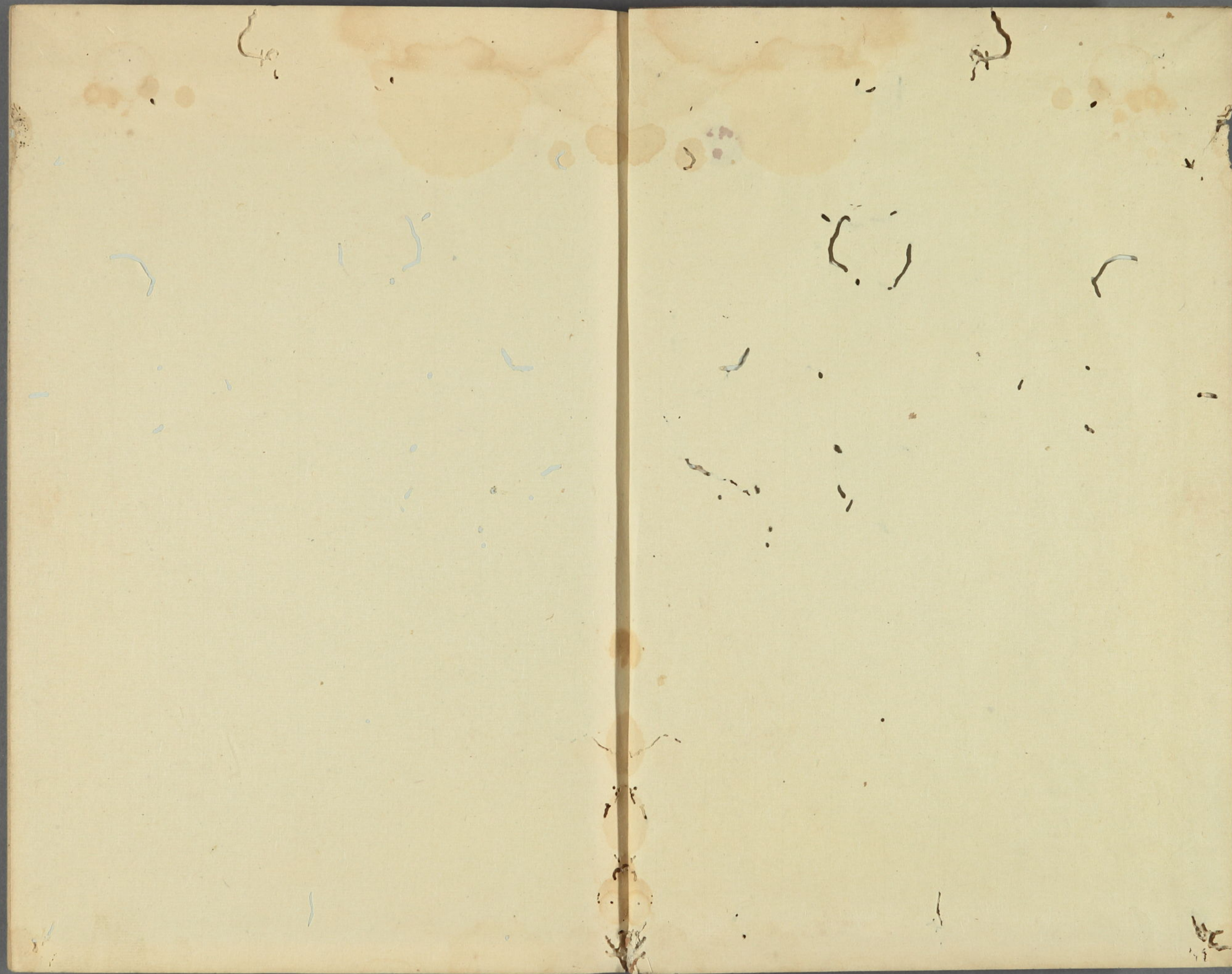


芭蕉門古人真蹟

天







赤松乃天明六年此姓河守の栗津義仲寺に住る
 所風法沙やなくとも國母來り寧府まゝて此つね
 わゝ家ヲ移りて此處ありてゐる云々寺の什物の
 中女芭蕉翁此齋堂とのまゝとて同様の一の齋堂なり
 まは榎の本乃杖あり二のたうまとの在母此門人なる
 筆をあつゑるなりとて中ふを來ハ唐土此男と一の
 かゝる中と大和乃女又家此なるらふとてかゝる

こゝにありては、
可一と云ふは、
と法夏の前めに、
皆名を志古人、
相よふ地より、
まゝ此道の至、
かゝるものを、

あつた人も、
事もあつた、
にえりて人も、

筑前國飯塚のうまなる

信亨

叢書

10 殺しや一本の折水徳

探九子

1 遠近の味 餅持れ里拙許

1 榎の舟は尾寄と漕連くさ

1 戯の舟と伸す多之秋の月丸

1 燐の垣歩市と海ふよ許

1 蓑の埜よ燐美より之

1 萱庵の有り成僧寺丸

1 池の舟の船相成其の産許

1 舟の燒れ蚊屋打りよ私語之

一 悲うは哥ううう心丸

松もははの哭は海解散評

四ツ村計に融れ入る

淡々と初月はうう丸

一 小境見分る雲は箱書汗

難哉や妹は肩涼を楊花と之

一 解ふ雲うう信はう丸

一 月は昔うう地は村は此汗

杖のきり

明月を悲花を雲織夜うう

一 行 楓もふ扇うう所系うう黒丸

鷗のたはるは波あまれ之許

一 吟神の麓も嶽列ら曇

一 石此流不却塔此ら丸

一 大蕪のまふ量り元東時許

一 月は擗れ畏と懸り至
カビのあつて又試らト

一 霧のろく包る麓の底あ丸

10 一 峯の火堂よら野まらせ許
うららららららららららら
おほらららららららららら

一 胎ぬふ妹の男子はまらり

一 東はるやれおのひ書み丸
付やう物いめららら

一 博のふふ一きれおの笑通て許

凡
鳴
法
出
之
蛙
ノ
音
也

名

凡
羽
翅
不
是
此
筋
此
塵
ノ
ハ
凡

凡
風
ノ
細
明
懸
ノ
所
許

凡
風
ノ
勢
不
是
此
枝
道
也

凡
羽
ノ
勢
不
是
此
筋
此
筋
ノ
勢
也

凡
羽
ノ
勢
不
是
此
筋
此
筋
ノ
勢
也

凡
羽
ノ
勢
不
是
此
筋
此
筋
ノ
勢
也

二十五
内七

武陽邑志存秘書



武陽邑志存秘書

此よりなる事は霜のつる事なり 蟬吟
のこ

武陽邑志存秘書
藤堂氏筆

依不守之寄附湖南

義仲寺

神以經冊 一枚

探丸古歌經冊 一枚

芭蕉点歌仙 一毫

古

藤堂氏蔵書目録

一曰 家父の教をたぐひて
年乃老やス子れとて
草多めとて母を
しに梁木元あるを
人義紹
子立

拾穂軒季吟老人真蹟二物詠帖

洛陽古靜寄進

諸惡業作

大慈大悲觀世音

眾善奉行

佛頂

蕉翁禪味與佛頂和尚看故法嗣也梁得其
真蹟傳之白雄白雄亦拙衲惠焉尤翁以
所尊信藏之粟津文庫云

釋祖明識

繫船蘆荻間蓬
底睡眠閑林葉
逐風到良疑雨
出山

直愚

蕉翁引導之師義仲寺直愚上人詩偈

寄附主 義仲寺門前住人若山應澄

上送智人字
月

少也如年下
一三由之古
長毛一うり
了少家二
此成何七
念二

了少家二
此成何七
念二

少也如年下
一三由之古
長毛一うり
了少家二
此成何七
念二

公相舎兄雪芝下と書く手紙

安永子十月壽附

伊賀浮流

とあす せせ
つれづれに花の
さかすかに花の
あはれにのあはれ
けしきよしの
月よしの
さかすかに
一ふりよしの
さかすかに
さかすかに
さかすかに

さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに
さかすかに

之是二平也
 之是二平也
 之是二平也
 之是二平也

古

之是二平也
 之是二平也
 之是二平也
 之是二平也

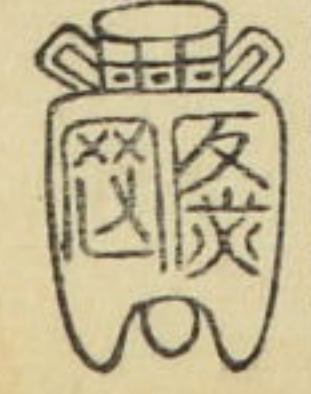
古也 消息 丁也
 精也 初也 丁也
 停於之理任人
 精離會孫孫山桐由
 寄附

之是二平也
 之是二平也
 之是二平也
 之是二平也

寄附

寄附

伊賀上野廣長兵衛川寄附



先師の懐舊

ゆめを枯れをかけたうらうらと石返の
連ようつらうらうらうらうら二十七年
ともかくその尾花うらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうらうら

いけのつらうらうらうらうらうら
おらうらうらうらうらうらうら

山半後

伊豆山半後

伊豆山下

山岸棟安子舟

此乃在村中... 是為... 國... 志... 作... 今... 是... 二... 一...

切... 九... 年... 七...

土方換

配力

配刀書翰之切

孫 何某清三寄附

喜水句

古月おのほよほのまをくしん 芭蕉
もよみ足すれ 其る舟揺る
え祿やノ板

百歳子筆 おきし宗 何某 寒道
育やふふ

りもあうし 麻れまとう
くまをくまは

妻恋し 麻れ物や花だけ

終日花よらし 沢れ自射露を

とけく古里よ かなる事

赤良路や ころおとろくか 誰子電

或之

雪担て又或く証ひる

伊場 濱氏 徳也

初雪やもたせしるゝ末のふり
魚子

曾祖又吉の筆跡

田中長英寄附

揚敬事ありき風寒の久
至ふききせ雪の降行

筆跡

吉原殿 揚敬

祖父槐市筆跡

伴陽城下
中尾如風

爰打守之病く候り甚ハ 尾次

山等の海新やわき

尾頭之蹟 寄附

修徳上殿

十束一冊



苞蕉翁	五
正木	五
村叢	三
式之	五

曾孫
 名木筆
 烏文寄附
 半款仙句數也

甚くし来々海り野々

梧叢

露乃以ととる所露乃乃種前

紅月長から公能たかり遊りて配力

古也乃煙之のつまんの志つて在寝

帯中筆のたつとあはれと報のたてお芳

さうくろくろくは 稽うはうう
燭を力ふまも出んしやきと 前
縁と地りときらみぬ 類
燦うーとらうても中のつら海 景
おしい ~~海~~ ^窓 もぬうめい 芳
じらふ海子のうまめはあかひ 鏡

湖の長月と身入とらん 昔
揺揺力こし 船のおろとぬう 力
お撲まきしけてそりもろ 去
うけふ山伏村のうーめ 氣
~~海~~ ^海 ~~海~~ ^海 の海 鏡
柳に ~~海~~ ^海 ~~海~~ ^海 馬力 ~~海~~ ^海 鏡
白芳 鏡 氣 去 力 昔

こえんもくまのうんま風は物
癖とらおひなげのふ積上げと
ひきこくは風とく
左方の傍のせまのなま
血乃あしのあらふ血のん
末冬代と

たふん力り屋に雨敷ささる
船に葦草や細立乃舟のま
能乃舟乃力棚之のしん
干しもささるぬにさる
干しものおさるさる
神しんぬしん

夢く存た徳心 八 士 益
新加 徳心 徳心 徳心 徳心
非 徳心 徳心 徳心 徳心
年 徳心 徳心 徳心 徳心
行 徳心 徳心 徳心 徳心
花 徳心 徳心 徳心 徳心
力

大 徳心 徳心 徳心 徳心
年 徳心 徳心 徳心 徳心
年 徳心 徳心 徳心 徳心

右暴風卷一策元禄七年甲戌之秋阿翁在伊賀水猿雖宅
同諸子賦之浄書者卓袋書之而今日昔集業既載焉烏乎
此物也翁臨滅之辭而俳諧之遺教經也於是乎雖之家相
傳以為祕寶今茲曾孫相而于疾病矣乃謂貧道曰凡天下
之物常傳于嗜者而止于不嗜者矣未知余死後歸于誰家
也遂属貧道以蔵于湖南義仲寺云

天明壬寅十月十二日
蝶夢幻阿識

昔難波の浦 磯乃丈婦す
ゆるきるぬいよ ぬいよんかたしく男
ハこらしーくさわーの屋のあま
んき書よのいぶぬいよしなまほ
生ちんとしてえうほいん 賊をつい
ぢいんとのいりのそ ぬいよの書
さうゆるきる日りぬいよ 書いん

さきんよめらういみさ 蓮のいよ
えつけゆーかハ男ハあまゆーけいん 情
力なまよあーとあうゆーかほいん
同くいん

あまらうてあーちりあういんあま
りーなぬはの浦ハ行いん
とまらうゆーかハ女ハあまきあ
あまらうてあまらうてあまらうて
いん 難波の浦ハ行いん

かたし作しあ用そのし平る人の
しきのひさしひのしひのしひ
しひのしひ

文草禅師手跡歌書切

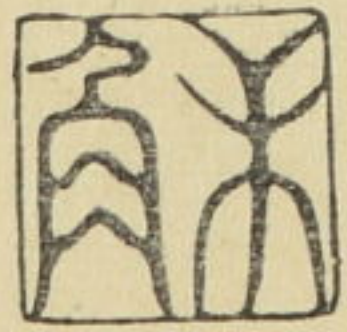
寄附 湖南青尚

尚白曾孫
江左車寄附

尚白曾孫
江左車寄附

秦綱子那
角上 真跡

西湖堅固本福寺
曹孫蒲菴坊書角



年々業
うきし

角上

拓師
部
燒
子

松林より化移る世や中なること

岩城村といふあり船よりせおきしうき
川尻里の村くともくめんあきさるん
はらみおれさく男志のそとさうきは

汐薨ぬ山あのみさし乃白き

倉嶋のちの海あはて船を被つると細きむらび
米洗ぬ水干浜谷も有ぬ谷乃舟は下
あかりの流をさく一柱を枕とほささる
さうらふ乃橋負の由ちく乃うらく一舟の

あきさくし

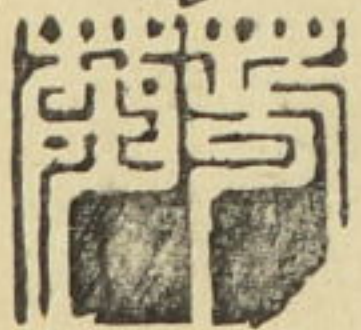
すくすくのき程のし船をあり

文も言違つる海路いつるもさめ
らうらうらうらうのう谷をのりあて

う谷えてとる流日花秋のし

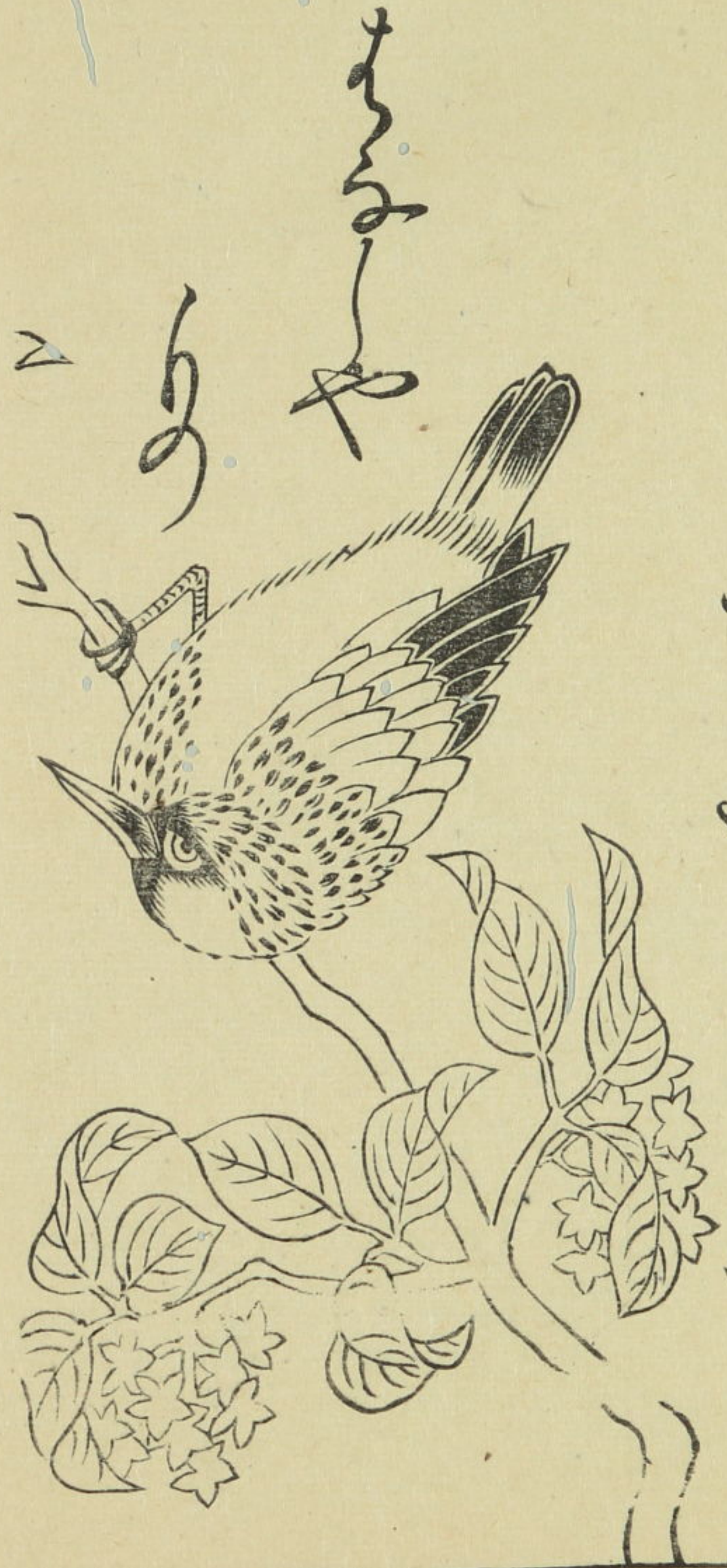
竹青堂正秀の由縁よる書物
あきさくしと寄附也

湖南粟津松本
穂長屋



あらしさへ

あらし



あらし



あらし

あらしさへ
あらし
あらし

智月画説
乙州短冊
あらしさへ

粟津
可風
舎才

江雨寄附

心本様
様々

~~~~~

~~~~~

中

~~~~~  
止ハキ自ハキ掛ハキ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


了世とらへる者ありては
 他はともなふ目ありては
 ありては中を修りては
 後少少ありては
 後少少ありては
 うしし物ありては
 うしし物ありては

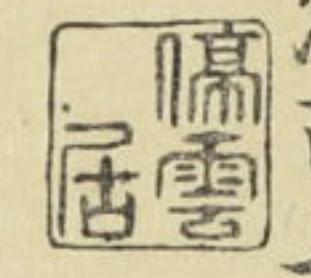
了世とらへる者ありては

ありては

ありては

奉納酒堂琢碩筆跡

湖南松瀉菴巨洲



了世とらへる者ありては
 ありては

本島者余岳と稱之父此と立蹟之
 其家所藏而裁一篇也

中安晴山懸



淨—家真宗の信徒を

いへ 善くを 善い 善い

光 照 耀 の 光 輝 照 耀

い—い—い—い—い—い—

法 華 經 持 經 師 持 經 師

持 經 師 持 經 師 持 經 師

持 經 師 持 經 師 持 經 師

持 經 師 持 經 師 持 經 師

の 持 經 師

持 經 師

持 經 師

持 經 師

持 經 師

持 經 師

天時元祿七年

年 月 日

法内何借物進



路通文章一篇

唯泉寺魯江寄附

歲暮

善なりとふおそむとせの故

昌房

昌房手跡
昌房考孫
磯田雨橋
寄附

安のきく精 愛の心
はるはたけの心
うすくぬらぬら
とらとら
おとぬらぬら
ぬらぬらぬらぬら

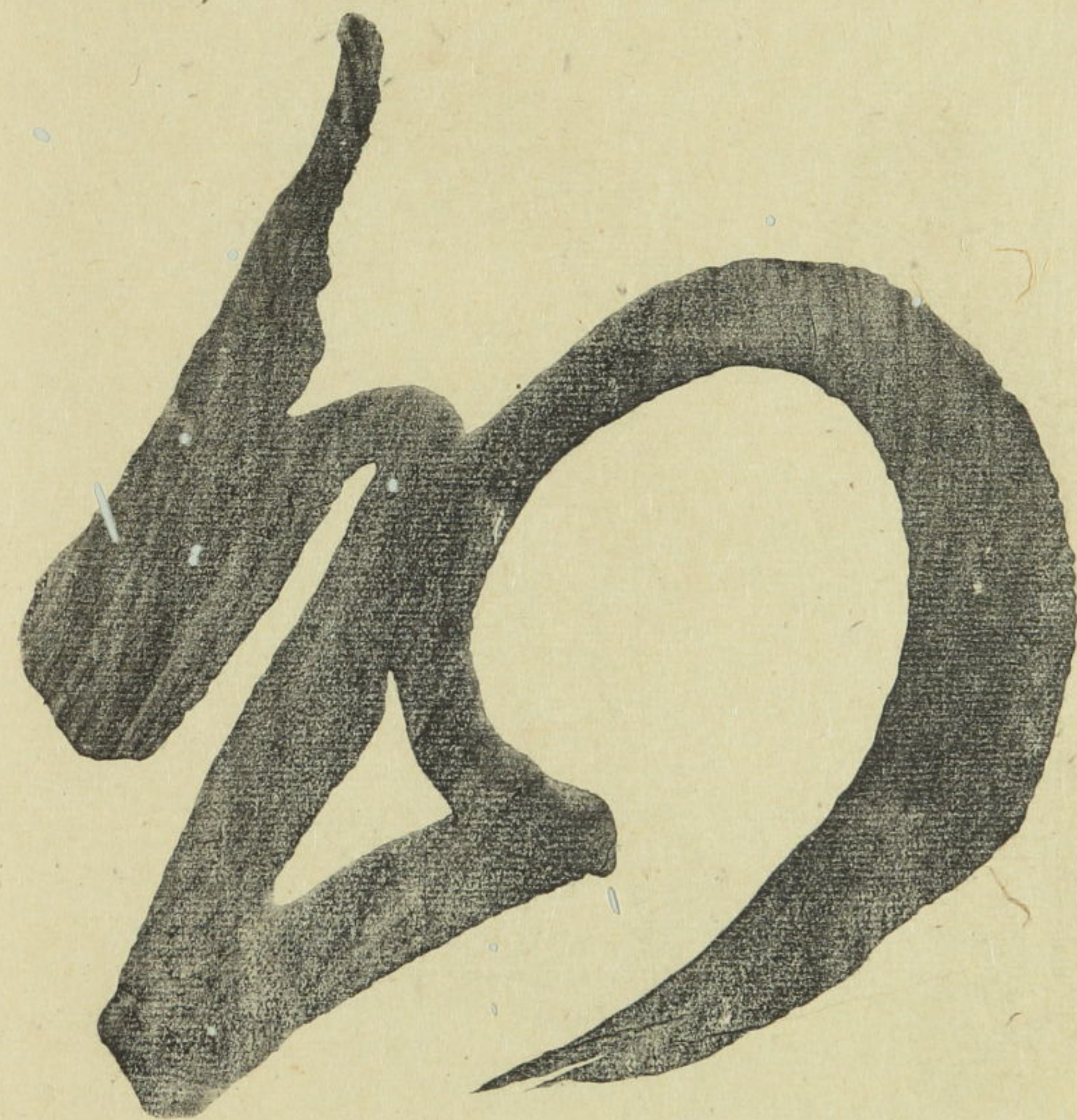
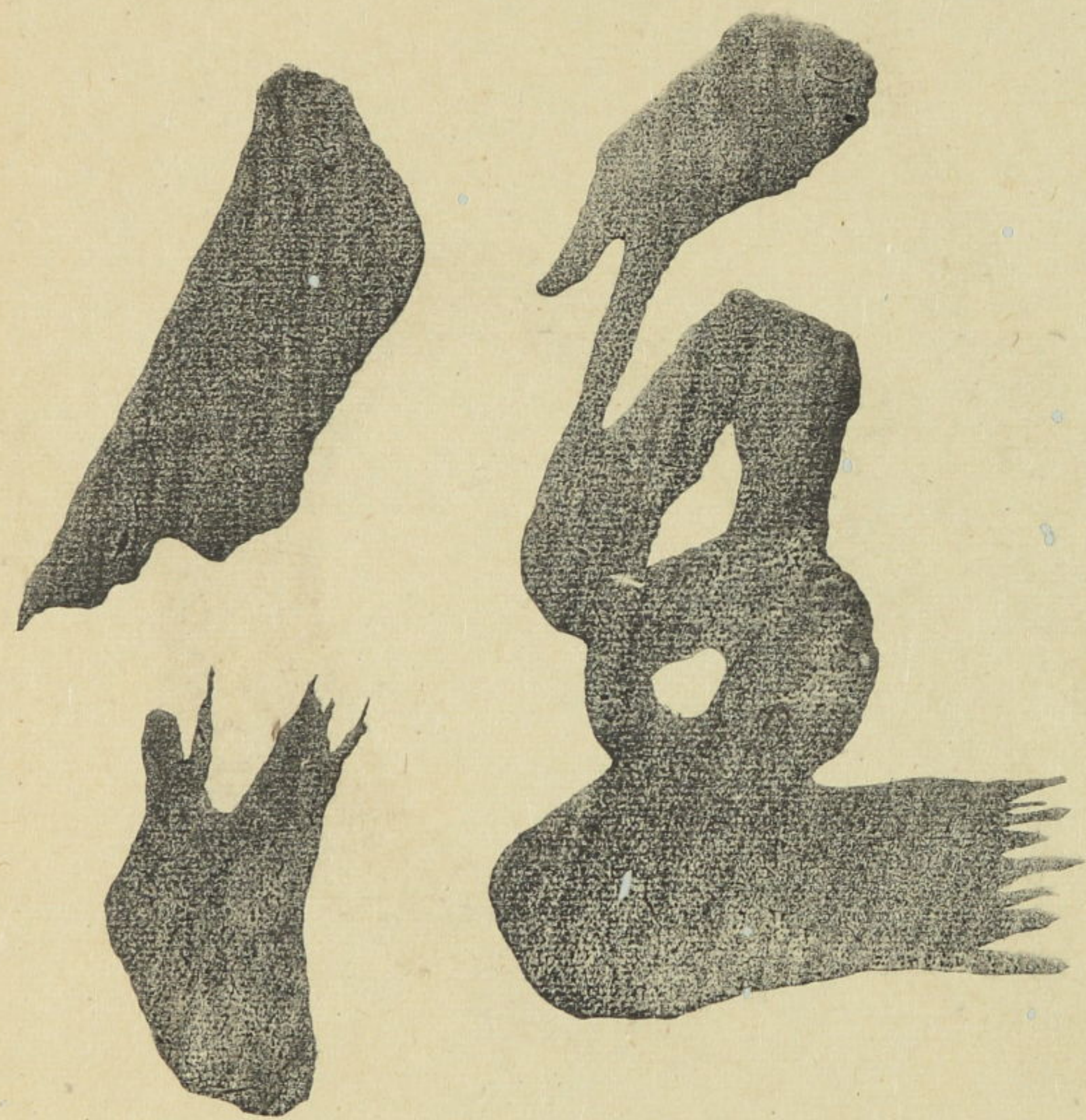
うすくぬらぬらぬらぬら

若菜曲翠葉物

寄進主曲翠葉物
安具葉橋母

うすくぬらぬらぬらぬら
うすくぬらぬらぬらぬら
うすくぬらぬらぬらぬら
うすくぬらぬらぬらぬら

其の香



庭

一如子



蕙香筆

乃如人意
〜〜〜

國分山舊菴額寫三字

湖南 福田五来寄附

人

一うろくし包

一袋

一むらじのこ

一袋

たのむるものありては

江下

のり

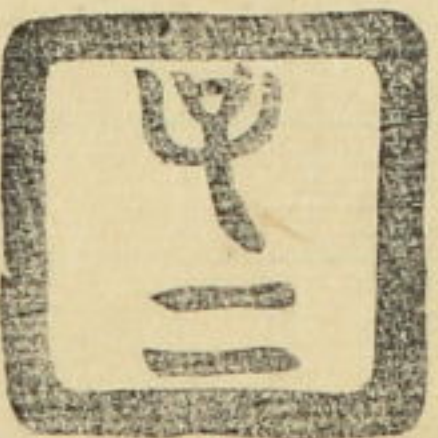
江下

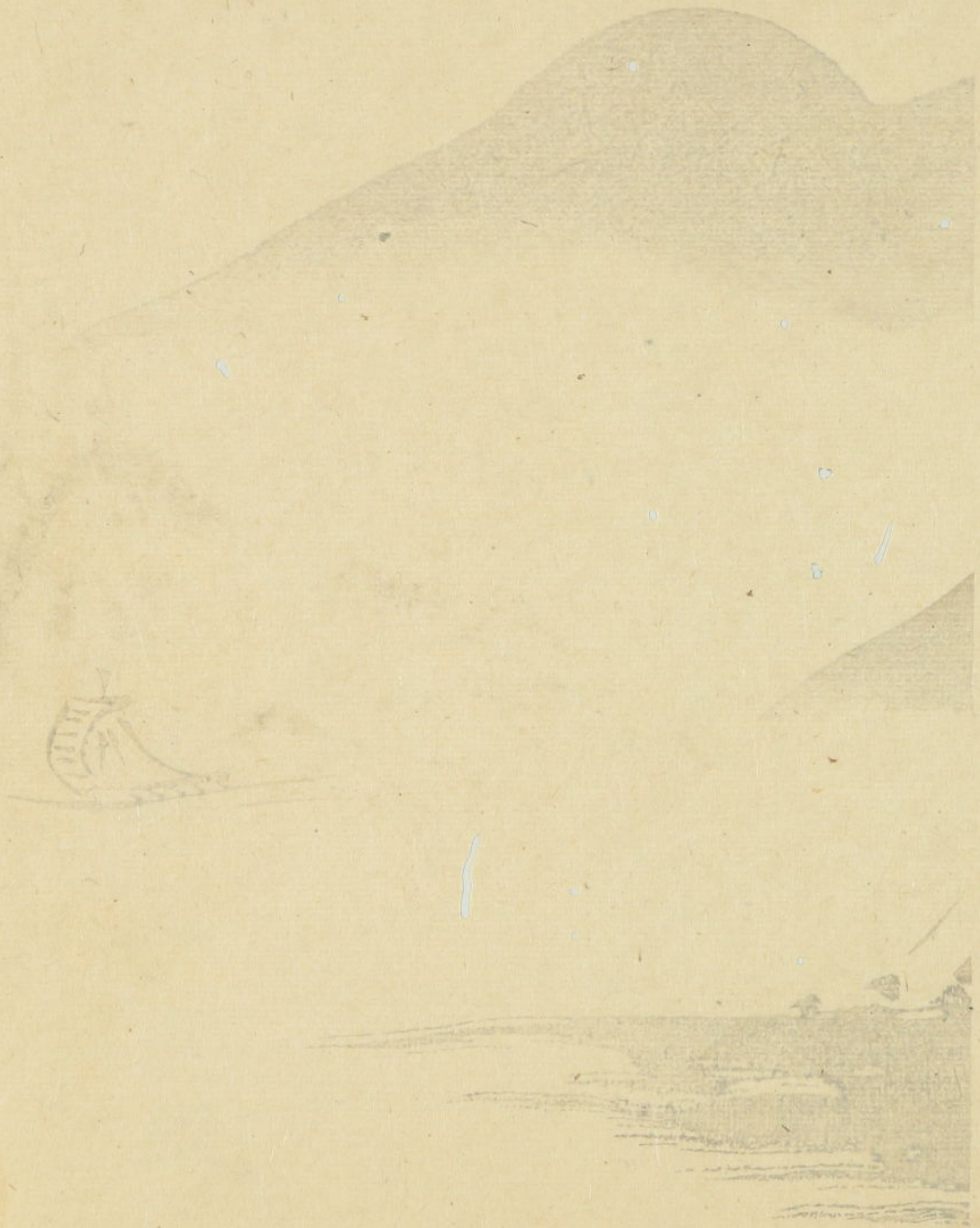
中野屋市

素の園子

素津落州寄附

五老 五維





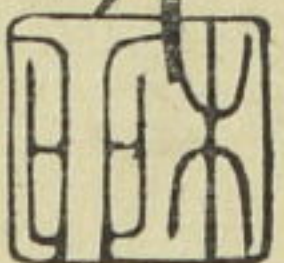
許六山水之画 寄附湖東 馬胤

五尺之畫 寄附湖東 馬胤

四程序短冊

安永十辛丑正月寄附

堀孫木卯



臘八や火傷 寄附湖東 木導

木導 埋火短冊寄附

湖東 土田任人 曾我塘里

々々星形かゝるよわきむやや高し云 松尾
茶の虫よをよひ待つらん星の書 之角
むくし日家隆つ七世一なるのこ
ゆき母のよひおはあわりの法
あしあふてたれ九そ一あまのまふ
あういふや
免てたふや星形一床も新顔名 素堂
六位の考りまゝくま文想とみ川 汶村

汶村
泰納

韻塞集之内
江品川瀬と店
野村光也

